

## 職人かたぎ 税制30年



経済産業省も財務省も、官僚が2、3年でポストが変わる中、阿部氏は、経団連で税制に約30年間携わり、その知識・経験は誰よりも磨き上げられていた。それが存分に発揮されたのは安倍政権の下での法人税改革である。

「課税ベースを拡大しつつ

税率を引き下げる」ためには、

論理だけでなく、業界ごとの

2018.2.12

あべ やす ひさ  
**阿部 泰久さん** 元経団連常務理事 **58日(葬)**

心不全のため 2017年11月25日死去・62歳

損得・利害を考慮しなければ  
経済界の合意は取り付けられ  
ない。彼の頭には、常にその  
バランスシートがインプット  
されており、複雑な利害を調  
整し、政・官・財の合意形成  
を猪突猛進して進めていく手  
法は、彼の真骨頂であった。  
今日の、法人実効税率の20%  
台への引き下げは、彼の存在  
なくしてはできなかったとい  
っても過言ではない。一方、  
周りへの連絡や配慮が欠けて  
政治家や官僚の逆鱗に触れ、  
上司から叱責されることも一  
度ならずあったが、本人は「怒  
られるのも勲章」とへこたれ  
なかった。

財務省で税制を担当してき  
た筆者とは、立場違えど日本  
経済を思う気持ちは一緒、と  
いうことで、民間の税制シン  
クタンクを設立しこの10年間  
共同で運営をしてきたが、そ  
こで見たのは、どんな作業も  
嫌がらずに行う職人かたぎで  
あった。経団連常務理事の地  
位にあっても、会場で自ら受  
付に立ち、参加者の名札を机  
に置き、後片付けを黙々とし  
ていた姿が忘れられない。

経団連事務局を退いて1  
年、やっと時間ができて、わ  
が国の法人税制の変遷を詳細  
に記述した書籍を世に問うた  
ところで、これから「必ずし  
も折り合いのよくない法学者  
と経済学者が一緒に税制を考  
える学会を創立しよう」とい  
う夢を語り合ったのが、まる  
で昨日のことのようだ。(中  
央大大学院教授・森信茂樹)

悼む